

科目名	相対研修 I			担当教員	志村 力／新井庸弘(特講) 川島一浩(特講)
単位数	4 単位	レポート数	6	スクーリング時間数	30
科目概要	<p>「相対研修」は、少林寺拳法の技法を修練する科目です。技法の修得、その上達や深化はもちろんですが、相対演練を通じて二人で協力し合いながら課題に取り組み、お互いの向上をはかることを第一義とします。</p> <p>また、行としての少林寺拳法がそうであるように、身心や自他の調和など座学で学んだ行動の原理原則を、少林寺拳法の修練をモデルとして理解して体得します。</p> <p>本科目では、級から初段科目までの「剛法」の技法を指導します。</p>				
到達目標	スクーリングにおいて説明する。				
学習アドバイス	スクーリングにおいて説明する。				
学習教材	<p>配布教材 … 『社会武道学科通信制ビデオ教材』</p> <p>参考教材 … 『少林寺拳法教範』 宗 道臣／金剛禅総本山少林寺(非売品) 『金剛禅読本』 金剛禅総本山少林寺／950円(税込) 『僧階教本／行論 1 少林寺拳法概論』 金剛禅総本山少林寺(非売品) 他、少林寺拳法に関する市販書籍</p>				
テーマ番号	レポート・テーマと留意点				
13-A	実習レポート				
	留意点	スクーリングAで「相対研修 I-1」を受講後、次に受講するスクーリング(1日スクーリングを除く)までに提出する。 「実習レポート用紙」の記載事項に従って作成する。			
13-B 13-C	実習レポート				
	留意点	スクーリングCで「相対研修 I-2」「相対研修 I-4」を受講後、次に受講するスクーリング(1日スクーリングを除く)までに提出する。 「実習レポート用紙」の記載事項に従って作成する。			
13-D	実習レポート				
	留意点	スクーリングDで「相対研修 I-5」「相対研修 I-6」を受講後、次に受講するスクーリング(1日スクーリングを除く)までに提出する。 「実習レポート用紙」の記載事項に従って作成する。			
13-E 13-F	実習レポート				
	留意点	スクーリングEの「相対研修 I-7」を受講後、次に受講するスクーリング(1日スクーリングを除く)までに提出する。 「実習レポート用紙」の記載事項に従って作成する。			